

令和 6 年度
教育行政 執行方針

奈井江町教育委員会

も く じ

| | |
|---------------------|---|
| はじめに | 1 |
| 1.未来を担う子どもの育成 | 2 |
| 2.生涯にわたる学びの推進 | 3 |
| おわりに | 4 |

はじめに

令和5年度は、4月に発足した小中合同のコミュニティ・スクール（学校運営協議会）では、学校評価はもちろん、体験活動のあり方、学校を支えていく仕組みなどについて議論が行われ、小中高の子どもたちが自分たちで実践したいことを考えて活動する子ども会議では、児童会や生徒会のメンバーのほか、公募による子どもたちも含めた20名を超える委員が意見交換を重ね、産業まつりの出店や芽室町とのオンライン交流など、主体的な活動が行われてきました。

総合文化祭も、コロナ前のように開催すると共に町民の気軽な作品展示の場として開催してきた町民ギャラリーを通じて、サークル活動の活性化を図ってきました。また、コンチェルトホールが30周年を迎え、ホール初となる30人規模でのオーケストラ演奏となった北電ファミリーコンサートや村治佳織さんのギターリサイタルなど、町民にとって質の高い文化、芸術に触れる機会をつくと共に町外からの交流人口の活性化に寄与することができました。

迎えた令和6年度も、このような歩みを止めず、教育ビジョンの推進に向けた教育行政の執行を行って参りたく、その方針について申し上げます。

1. 未来を担う子どもの育成

昨年から取り組んできた社会科副読本「ないえ」の完成が近づいてきました。子どもたちの社会生活の理解、そして、奈井江町のまちなみや仕事といった郷土の今、郷土の歴史の理解と愛情を育む教材として、新年度から活用して参ります。また、ICT環境が整う中、本書をPDF版として発行していきます。

小学生を対象とする公設塾ななかまは、学校帰りの子どもたちが立ち寄り、自ら主体的に学ぶ場として運営しています。引き続き自学自習を主軸としつつ、多くの子どもたちが苦手とする文章問題のミニ授業を行うほか、特別授業として道内動物園の飼育動物用の野菜栽培などにチャレンジします。

中学生が高校進学を始めとするなりたい自分になるための学習支援に加えて、学習塾の多くが町外にあるなど、通塾に係る保護者負担の軽減を行い、延いては移住定住にも寄与する事業として、中学生を対象とする公設塾の令和7年度創設に向けた準備を進めます。

近年、児童生徒のこころの相談や保護者、教職員の助言などを行なうスクールカウンセラーの役割が大きくなっています。必要に応じたカウンセリングができるよう予算の拡充を行います。

また、子どもたち一人ひとりが、生きる力を備えて行くための学びの環境、具体的には小学校から中学校までの9年間のあり方について、コミュニティ・スクールにもご協力を頂きながら、議論を始めて行きたいと考えています。

2.生涯にわたる学びの推進

自分の知らない世界を知り、興味を広げていくことができる読書は、子どもたちの好奇心を育み、大人たちの人生を豊かに彩ります。令和6年度は、今まで取り組んできた活動を強化するため、ブックスタートでプレゼントする本を3冊に増やすと共に乳幼児とその保護者が図書館デビューを行うための「図書館キッズデー」を創設し、毎月1回は、子どもたちが大きな声を出しても良い日にしていきます。また、図書館システムを更新し、小中学校との連携を図ると共に自宅でも図書検索や貸し出しの予約ができるようにするなど、本に接するチャンネルを増やししながら、読書活動を推進していきます。

スポーツの面では、幅広い年齢層の方たちから好評を頂いてきたコンディショニング事業の担当トレーナー1名を追加雇用し、事業の充実を図って参ります。

音楽の面では、「生涯活躍のまち」プロジェクトを所管する一般社団法人ないえ共奏ネットワークとの連携を強化し、役場新庁舎が供用開始となる5月以降、現在みなクルを拠点に活躍している地域おこし協力隊3名を教育委員会の所管として活動の拠点を文化ホールに変更すると共に新たに雇用される地域活性化企業人の方にもご協力を頂き、「まち中 音楽活躍システム」事業を推進していきます。

おわりに

以上が、令和6年度に取り組む主要な教育施策です。

学校教育や生涯学習、共に主体的な学習機会の創設と学び続けるための環境確保に務め、町民の皆さんとの対話を積み上げながら教育ビジョンの推進を図って参ります。

議会の皆様、町民の皆様のご支援をよろしくお願いいたします。

